# グローバル制御社会のメディア分析のための新たな理論構築

Towards the Construction of New Media Theory
for the Analysis of Global Control Society

水嶋　一憲（MIZUSHIMA Kazunori）

A・ネグリと M・ハートが、グローバル化する現代世界を新たな視角から捉えるために呈示した〈帝国〉という概念は、今日もさまざまな学問分野に強い影響をあたえている。〈帝国〉とは、従来の国民国家の境界を超えたネットワーク状の主権形態や、グローバルな制御（コントロール）社会への移行を指し示す概念である。こうしたグローバル制御社会としての〈帝国〉は、諸国家の領域を横断する資本の動きやインターネット以降のデジタルメディア環境の劇的な変化とも連携しつつ、私たちの〈共にある生〉のあり方を大きく変容させている。本研究は、ネグリとハートによる帝国論の新展開の重要性を一定評価しつつも、彼らの〈帝国〉研究におけるメディア理論の不備を批判する立場にたつ。その上で、かかる重大な欠点を補い、またひいてはグローバル制御社会としての〈帝国〉を十全に分析するために、グローバル化時代の新たなメディア理論を構築することを目的とする。

そのような目的に到達するために 2018 年度には、以下のような研究成果をあげた。【招待講演】水嶋一憲、「機械状資本論からみたメディア・インフラストラクチャー」、インフラリテラシー・プロジェクト（科研費基盤 B：メディア・インフラに対する批判的理解の育成を促すリテラシー研究の体系的構築）」の初年度末セミナー（第 6 回研究会）、東京大学、2019 年 3 月。【学会発表】Kazunori Mizushima, “Towards the Politics of Transindividuation in a Post-Media Era”（国際学会 Association for Cultural Studies の第 12 回大会 Crossroads in Cultural Studies 2018 での報告）、中国・上海大学、2018 年 8 月。【連載論文(単著)】水嶋一憲、「機械状資本論ノート：メディア・技術・資本主義　第 1 回〈悪のメディア機械〉」（全 6 回の連載を予定）、『5 Designing Media Ecology』、第 9 号、『5』編集室・発行、84－92 頁、2018 年。【雑誌論文】水嶋一憲、「コミュニケーション資本主義と加速主義を超えて：横断個体性の政治のために」、『現代思想』、青土社、171－182 頁、2019 年。【ウェブ記事】水嶋一憲、「中国の「爆速成長」に憧れる〈中華未来主義〉という奇怪な思想」、『現代ビジネス』、講談社、2019 年 3 月。【図書】北野圭介編著、アレクサンダー・ザルテン、水嶋一憲他共著、『マテリアル・セオリーズ：新たなる唯物論にむけて』うち 3 章「メディア・テクノロジーと権力：ギャロウェイ『プロトコル』をめぐって」北野圭介、伊藤守、大山真司、清水知子、水嶋一憲、毛利嘉孝、北村順生 73 頁～106 頁、2018 年。

これらの作業と成果を踏まえた上で、本研究は 3 年目（最終年度）に当たる 2019 年度も目的の達成に向けてさらに多面的な探究を推し進めてゆく予定である。